

## 『産業カウンセラー等の実態調査』詳報：その③

### 「資格」取得により培ったスキルを活かして「活動」をしている人は…？

本会報の4月号および5月号にて、職種で「カウンセラー」を選んだ人の実態を見ていきましたが、今回は質問9で産業カウンセラー等の「資格」取得により培ったスキルを活かして「活動」\*をしていると回答した人の実態を見ていきます。

回答者\*\*のうち、「大いに活かして『活動』している」（以下「大いに活用」と略す）を選んだ人は、3,014人（21.1%）、「まあ活かして『活動』している」（以下「まあ活用」と略す）を選んだ人は、5,607人（39.2%）、「ほとんど活かして『活動』していない」（以下「活用なし」と略す）を選んだ人は、5,588人（39.0%）でした。

\*スキルを活かした「活動」とは、産業カウンセリングの活動領域である「メンタルヘルス・ケア」「キャリアカウンセリング」「人間関係開発」のほか、職場や日常生活での活動を含みます。

\*\*ここで回答者とは、まだ資格をとっていない人および無回答者を除いた14,312人を指します。

#### 1. 協会認定3資格の内訳は？

まず、取得資格（質問1）を見ていきます。「シニア産業カウンセラー」を持っている人のうち、「大いに活用」している人が44.8%なのに対し、「キャリア・コンサルタント」は33.1%、「産業カウンセラー」の資格だけをもっている人は16.5%になります。「シニア産業カウンセラー」をもっている人の方が、スキルの活用の程度があがる傾向が見えてきます。（図1）

#### 2. どのような属性の人が活用しているのか？

次に、スキルを活用している人が、どのような属性の人なのか見ていきます。

平均年齢は、「大いに活用」は、平均年齢51.5

歳、「まあ活用」48.2歳、「活用なし」46.1歳となり、やはり、若い方々は立場的に活用の機会が少ないものと思われます。

雇用の形態（質問23）においては、『契約社員』では44.1%、『非常勤』37.7%、『経営者（自営業主）』32.3%の人が、「大いに活用」しています。この結果は、会報4月号に掲載した「カウンセラーの雇用の形態」で見たように、職種がカウンセラーの人たちの多くが『契約社員』と『非常勤』であることの影響と思われる。

一方、「活用なし」の人が50%を超える雇用の形態は、『無職』75.0%、『主婦』70.8%、『休職中』64.5%、『派遣社員』55.7%、『定年退職者』54.1%となっています。

職種別（質問24（4））にみると、『カウンセラ

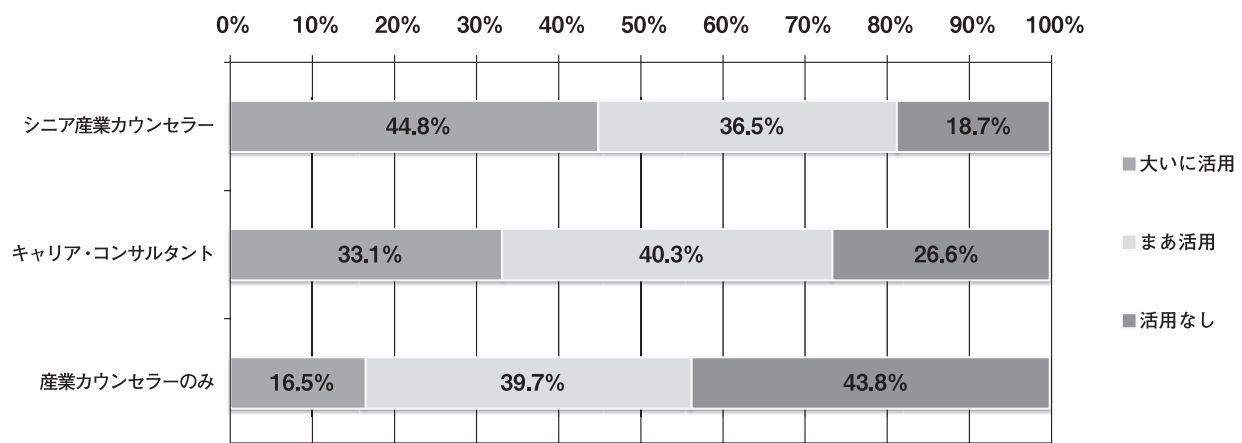


図1 協会認定3資格の内訳

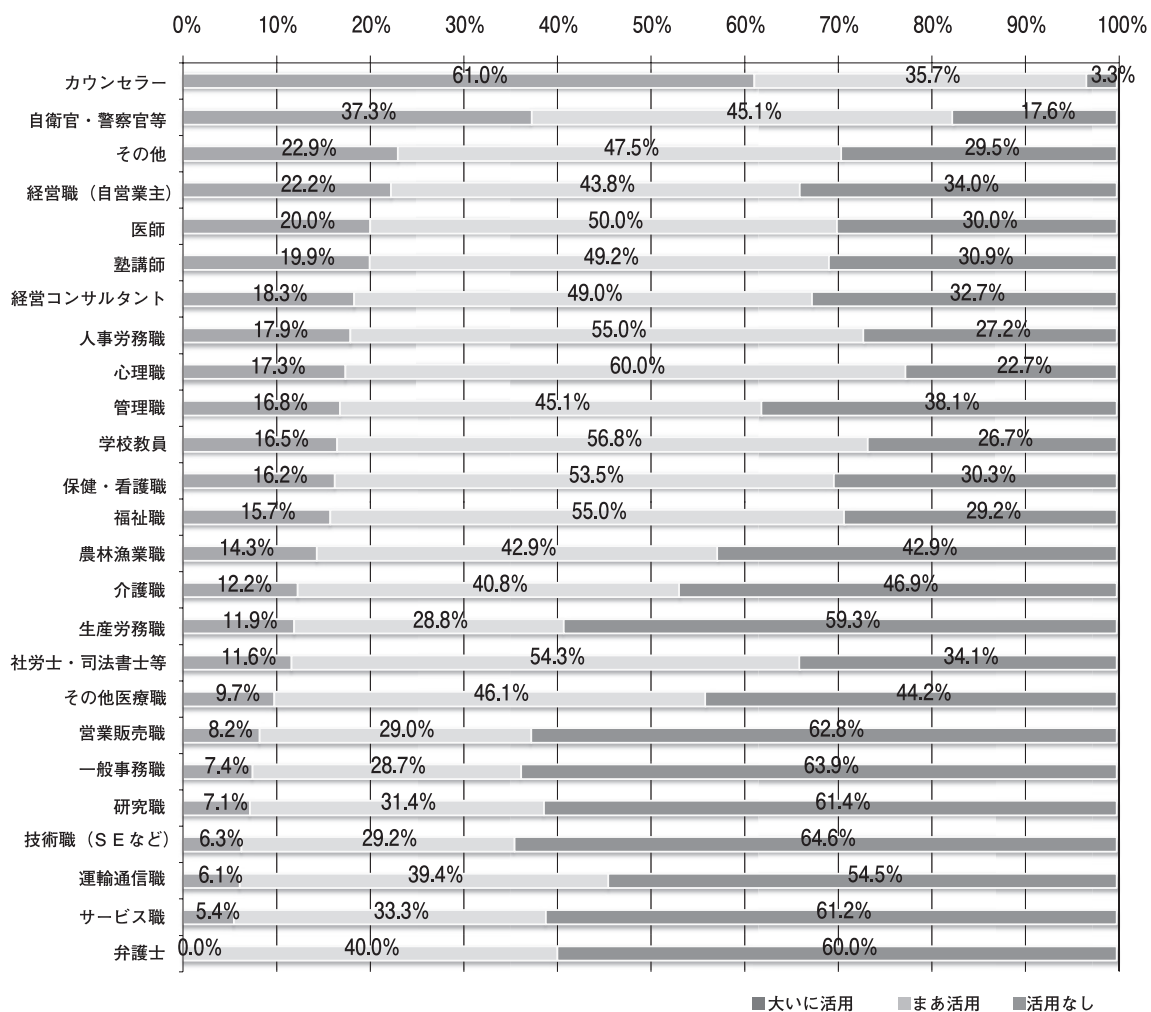


図2 職種

「大いに活用」している人のうち61.0%、『自衛官・警察官等』37.3%、『経営職(自営業主)』22.2%の人が、「大いに活用」していると回答しています。「雇用の形態」のところでも『経営者』の比率が高かったように、組織のトップがかなり活用していると思われます。逆に、「活用なし」が60%以上を占める職種は、『技術職(S E など)』、『一般事務職』、『営業販売職』、『研究職』、『サービス職』、『弁護士』でした。(図2)

ところで「まあ活用」の人の割合が全体の50%を超える職種をみると『心理職』、『学校教員』、『福祉職』、『人事労務職』、『社会保険労務士・司法書士等』、『保健・看護職』、『医師』となっており、他の公的資格での仕事の本業で、産業カウンセラー等の資格は補助的に使っている様子が伺えます。

周囲に資格を公示(質問7)しているかについては、『公示・公表をしている』では、「大いに活用」は30.3%、「活用なし」は26.3%、『身近にのみ公表』は「大いに活用」5.1%、「活用なし」60.7%、『非公表』は「大いに活用」4.4%、「活用なし」

は72.2%と、大きな違いが見られました。

「大いに活用」している人でも資格を公表しているのは三分の一に満たないのが現実です。

### 3. どこで活用しているのか?

次に、現在企業や団体などで働いている方は、どこでスキルを活用しているのかを見てみましょう。

活動の場所(質問11:3つ以内選択)は、「大いに活用」している人は、『外部EAP機関で』は66.2%、以下『官庁内の相談室で』、『協会の相談室等で』、『ハローワークで』、『自営の相談室で』が50%を占めています。反対に、『病院・診療所で』、『企業内相談室以外で』、『児童等の福祉施設で』、『プライベートな場で』は30%以下しか選択されていません。(図3)

### 4. 活動の内容は?

それでは、活用の程度と活動の内容(質問13:5つ以内選択)との関係はどうでしょう。

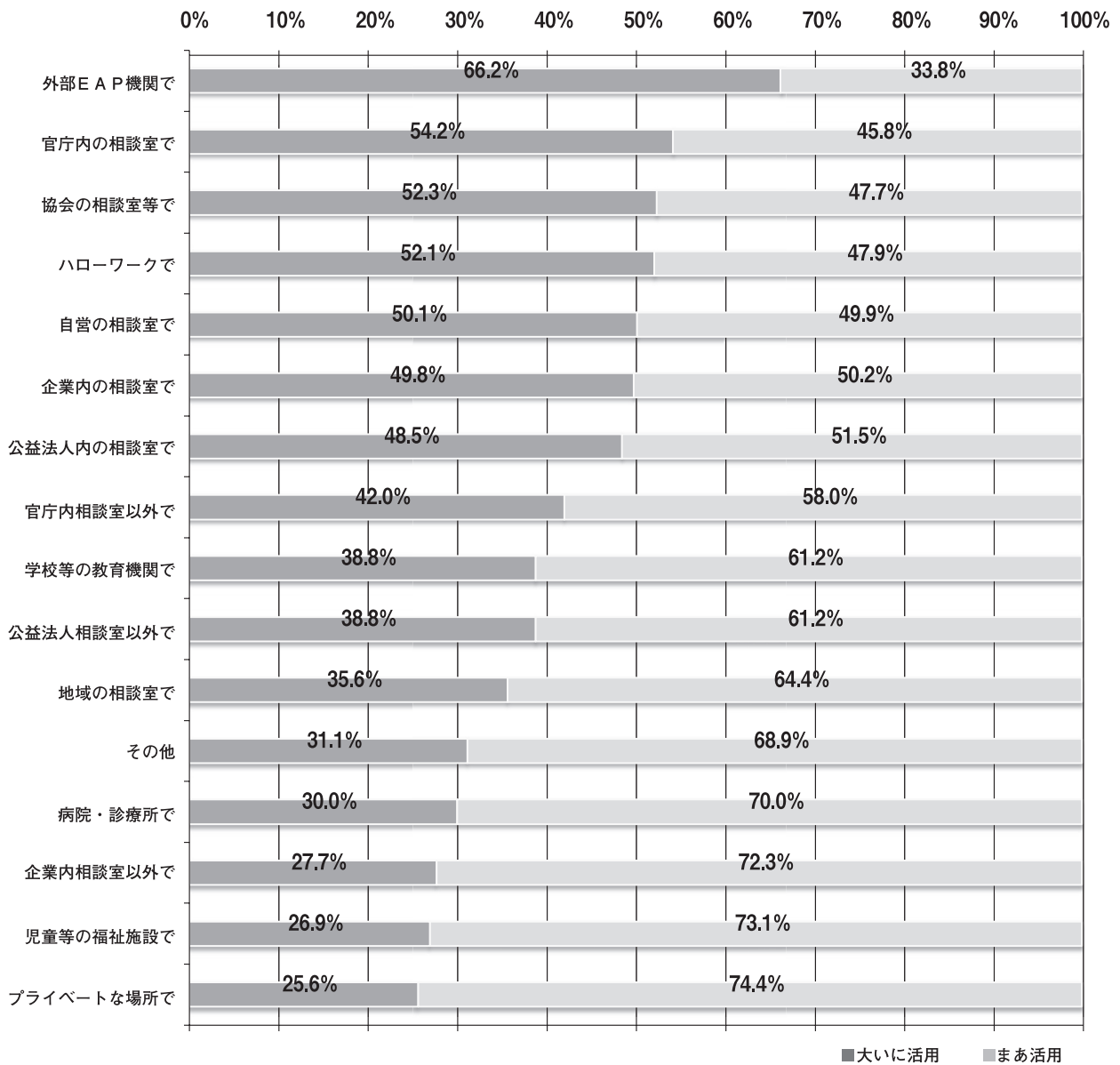


図3 活動の場所

大まかに見ると、『メンタルヘルス・ケア』、『キャリアコンサルティング』の領域においては、「大いに活用」している人の割合は40%～60%を占めています。『人間関係開発』の領域や『アセスメント業務』については、30%強と割合が下がっています。

個別に見ていくと、「大いに活用」している人は、『キャリアコンサルティングの教育』では61.1%、以下、『キャリアコンサルティングのコンサルテーション』、『メンタルヘルス・ケアのコンサルテーション』、『キャリアコンサルティングの企画』、『キャリアコンサルティングの面接』、『メンタルヘルス・ケアの教育』、『スーパーバイザー』、『人間関係開発の教育』が50%以上を占め

ています。主に『キャリアコンサルティング』、次に『メンタルヘルス・ケア』の領域の業務で、そのスキルを発揮しているようです。

これは、2.で職種が『カウンセラー』の人の61.0%が「大いに活用」している結果と関係していると思われます。つまり会報4月号で述べた通り、『カウンセラー』の42.8%が『ハローワーク』で活動しているので、ここでも『キャリアコンサルティング』の領域の活動内容が多くなっているのでしょう。

一方、活動内容のうちで、「大いに活用」している人が30%以下しか占めなかったのは、『生き方の自己啓発』、『友人等との対人関係』、『部下の指導や管理』、『同僚等との対人関係』であり、日

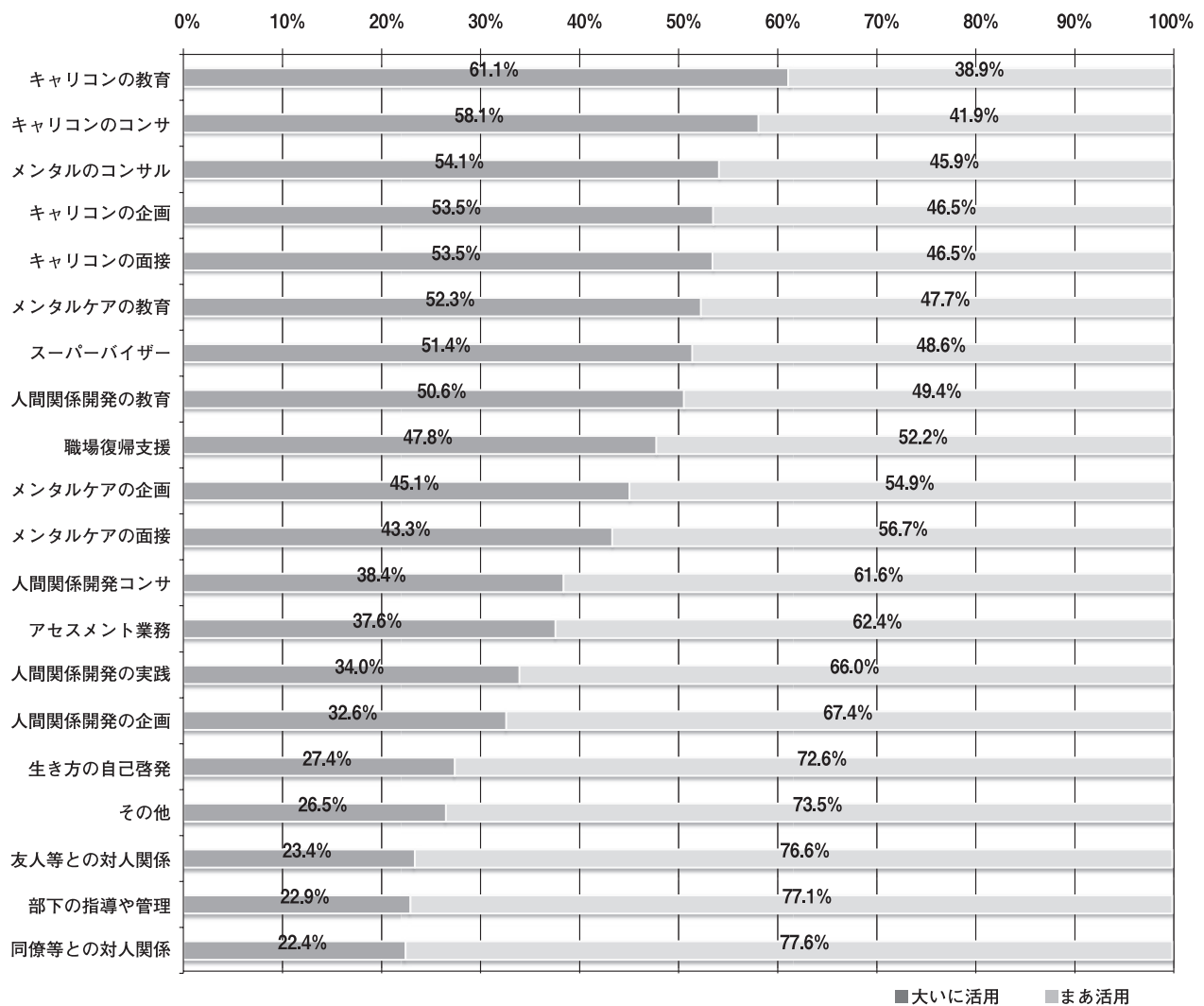


図4 活動の内容

常生活における対人関係でした。(図4)

### 5. スキル維持向上活動は？

最後に、「大いに活用」している人が、どのような勉強をしているのかをみていきます。

産業カウンセラーなどとして身につけたい特性(質問16：上位3つ以内)については、「大いに活用」、「まあ活用」、「活用なし」のどのグループでも、『専門技能』、『専門知識』、『専門経験』の順で割合が高くなっています。

では、スキル維持・向上のためにどのような活動(質問17：3つ以内選択)をしているのでしょうか。

「大いに活用」している人が選んだ維持・向上活動は、『協会の講義の講師』51.4%、『カウンセラー経験』49.3%、『スーパービジョン』44.1%、『他団体の講義の講師』43.4%、『関連学会の大会等』34.9%、『他団体の講義等受講』30.1%、『協会

の講義等の受講』28.0%と多くあげられています。

「大いに活用」している人は、講義等の受講よりも、実際に教えることや、カウンセラー経験を通してスキルを維持・向上させ、スーパービジョンを受けながら、学会に参加し専門性を高めていることが伺えました。

今回は、実際に活動をしている回答者の活動内容を「メンタルヘルス・ケア」、「キャリアカウンセリング」、「人間関係開発」の3つの領域に分類し、その実態を見ていきます。

この報告をお読みになってのご意見、ご感想を下記アドレスにお寄せください。

[chousa@counselor.or.jp](mailto:chousa@counselor.or.jp)

(文責：服部奈保子)